

身近な情報を実践活動に生かす特別活動
自分たちで考えて行動し、学級をよりよくしようとする児童の育成

名古屋市立H小学校

1 研究のねらい

私は、自分たちで考えて行動し、学級をよりよくしようとする児童を育てたい。学級をよりよくしようとする児童とは、自分たちで目標を立て、行動し、振り返る活動を繰り返し行う中で、学級をよりよくしていこうと意欲をもつ児童である。本学級の4年生の児童(男子10人、女子5人の単学級)は、明るく元気で、授業に前向きに取り組むことができる。一方で、学級をよりよくしていこうとする姿は少ない。これは、学級をよりよくしていく活動経験が少なく自信がもてないことや、目標を決める場面で、一人一人の「学級をこうしていきたい!」という思いを共有できず、一部の児童の発言で学級会が進んでしまい、目標実現への児童の必要感が低いことが原因であると考えた。

そこで、児童が学級をよりよくしていく経験を積むために、学級目標の実現をゴールに設定し、「目標を決める→活動する→振り返る」というサイクルを繰り返し回していく。そして、「目標を決める」の場面で、児童一人一人の思いを共有し、学級会で反映できるようにすることで、目標実現への児童の必要感を高めたい。また、「活動する」の場面で、児童が活動を通して見つけた学級をよりよくする記録を蓄積し、自分たちの活動経験を適切に振り返ることができるようにすることで、学級をよりよくしていける自信や見通しを得られるように実践を進めていきたいと考えた。

そこで、次の2点に重点を置き、実践に取り組むことにした。

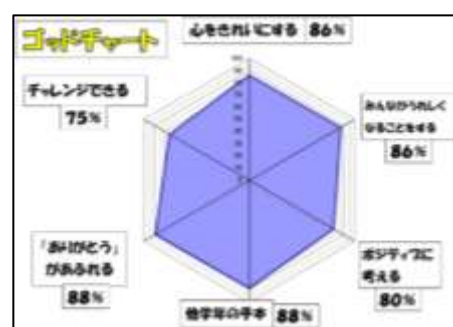
- 「目標を決める」の場面で、児童一人一人の思いを共有できるようにすること
- 「活動する」の場面で、学級をよりよくする方法を蓄積できるようにすること

2 研究の内容(対象: 4年生15人 男子10人 女子5人)

(1) 基本的な考え

○ 児童の思いを共有できるようにすること…「ゴッドチャート」

学級目標「ゴッドアップデート!」を実現するための六つの重点項目「心をきれいにする・みんながうれしくなることをする・ポジティブに考える・他学年の手本・ありがとうがあふれる・チャレンジできる」に分けて、学級目標実現度アンケートを行う。アンケートでは、学級目標が実現できているか4段階(できていると思う・少し思う・あまり思わない・思わない)で児童が評価を行い、その合計をパーセンテージで表し、「ゴッドチャート」(レーダーチャート)にする。また、児童一人一人の思いが表れる評価理由も共有できるようにする。



【ゴッドチャート】

○ 学級をよりよくする方法を蓄積できるようにすること…「学級がよりよくなるカード」

学級目標「ゴッドアップデート!」を実現するための活動の中で、「学級がよりよくなるカード」を活用する。「学級がよりよくなるカード」とは、「活動する」の場面で学級をよりよくする方法を見つけたときに記述し、蓄積していくカードである。カードを活用することで、活動を適切に振り返り、学級をよりよくしていける自信や見通しを得ることができるようにする。

【学級がよりよくなるカード】

(2) 実践の流れ

統計的な手法を生かし、次のような流れで実践を進めていくことにした。

流れ	活動の場	活動の内容
とらえる	朝の会	今までの活動経験から、学級全員の学級への思いをとらえる。
あつめる	学級活動	学級目標実現度アンケートを取り、児童の思いを集める。
まとめる	休み時間	集めたアンケートを基に、「ゴッドチャート」を作成する。
よみとる	学級活動	「ゴッドチャート」を基にして、運動会への重点目標を話し合う。
生かす	学級活動・常時活動	学級をよりよくする方法を活動経験の中で捉え、次の活動へ生かす。

(3) 実践の内容（2学期の実践）

ア 題材名 運動会を成功させよう

イ 目 標 学級目標の実現を目指して、一人一人の児童の思いを共有し、重点目標を決めることができる。また、活動の中で得た経験を適切に振り返ることができるようにする。

ウ 統計教育上の指導目標 「ゴッドチャート」を基に、一人一人の思いを共有して話し合うことができる。また、「学級がよりよくなるカード」を蓄積し、活動を適切に振り返ることができるようにする。

エ 実際の活動

【とらえる】…朝の会 **今までの活動から、児童の運動会への思いをとらえる**

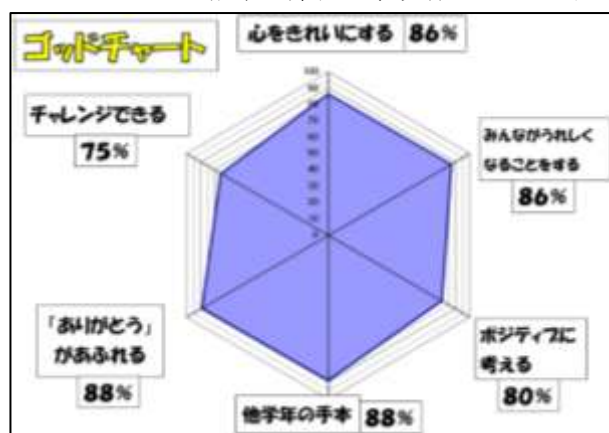
1学期、学級目標「ゴッドアップデート」を実現するために、目標を立て、プロジェクト活動(係活動)や集会活動で活動し、振り返るというサイクルを繰り返してきた。2学期になり、私が、「あと、1か月で運動会ですね」と話した。すると、「そうだね。運動会楽しみだね」「先生！運動会は、今までのような目標を立てないんですか」と聞いてきた。私は、目標を立てることについて他の児童にも聞いてみると、「今までも目標があると、それに向かって頑張れたよ」「運動会でもみんなで目標を決めて頑張ろうよ！」と話していた。そこで、運動会へ向けて目標を決めることになった。

【あつめる】…朝の会 **学級目標実現度アンケートを取り、児童の思いを集める**

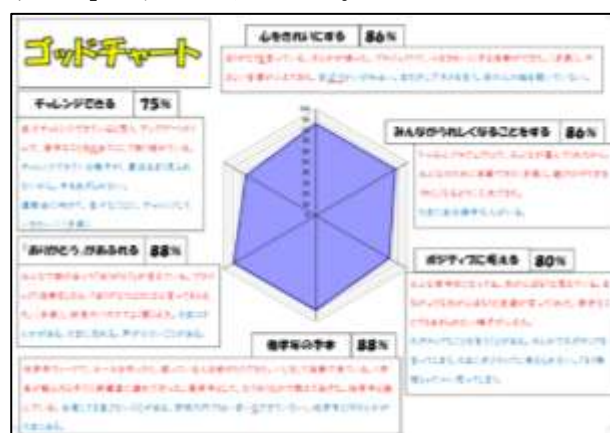
学級の現状を振り返るために、学級目標実現度アンケートを行った。児童は、学級目標「ゴッドアップデート」を実現するための六つの重点項目を4段階で評価した。また理由を書く項目も設けることで、児童の思いを集められるようにした。アンケートを提出するときに児童は、「どんな結果になるか楽しみ！」と、アンケート結果を楽しみにする姿が見られた。

【まとめる】…休み時間 **集めたカードを、「学級がよりよくなるグラフ」にまとめる**

アンケート結果を集計し、完成した「ゴッドチャート」を児童に提示した。



【ゴッドチャート】



【重点項目の評価理由をまとめた、ゴッドチャート】

それを見て児童は、「みんなの意見が一つにまとまったね！数字になっているから分かりやすいね」「先生！選んだ理由は見れないんですか」と話していた。そこで、児童がその項目を評価した理由も分かるように表示した。それらを基に、運動会への目標を決める学級会を行うことになった。

【よみとる】…学級活動 「ゴッドチャート」を基にして、運動会の重点目標を話し合う

「運動会に向けて、重点目標を決めよう」という議題で学級会を開いた。学級会では、

司会：運動会では、どの重点目標を目指すといいと思いますか。

C 1：「チャレンジできる」がいいと思います。75%で数字が一番低いからです。

C 2：確かにそうだね。普段はチャレンジできる機会が少ないから、運動会ではチャレンジしたいね。

C 3：「ポジティブに考える」がいいと思います。数字が80%と次に低いからです。

C 4：運動会に向けて、ポジティブ発言を増やしたいね。

と、「ゴッドチャート」を読み取って話し合う姿が見られた。また、

司会：評価理由を見て、何か意見がある人はいますか。

C 5：「ポジティブに考える」の理由には、「もう無理とってしまう」とあります。運動会は、競う競技が多いので、「もう無理」と思うことが多いと思います。そういう時こそ、「ポジティブに考える」ことができるいいと思います。

C 6：運動会では、ポジティブに考えられると、楽しく取り組みそうですね。

C 2：「チャレンジできる」の理由には、「運動会に向けて、チャレンジしたい！」と思っている人が多数と書かれています。だから、「チャレンジできる」に賛成です。

C 4：そうだね。運動会は、色々なことにチャレンジできるチャンスだと思います。

と、評価した理由を読み取ることで、一人一人の児童の思いを共有して話し合うことができた。話合いの終盤で、「ポジティブに考える」と「チャレンジできる」の二つの意見に絞られた。どちらの目標にするか話し合う中で、ある児童が、「運動会では、どちらも大切だと思います。ポジティブに考えられるから、チャレンジしようと思えるんだと思います」と話した。それを聞いて、「チャレンジして、うまくいかなくてもポジティブに考えられたら、またチャレンジしようと思うね」と話した。話合いの結果、「ポジティブに考える」と「チャレンジできる」の二つの目標を重点目標に決めた。学級の全員がどちらかの意見に賛成していたので、双方の意見をくみ取って出た結論に、児童は満足そうな表情を浮かべていた。

【生かす】…学級活動・休み時間 学級をよりよくする方法を経験の中で捉え、次の活動へ生かす

「ポジチャレ」（ポジティブに考える、チャレンジできる、を組み合わせた児童が作った造語）を実現するために、四つのプロジェクト（以下プロジェクトをPで表す）ポジティブP（ポジティブきかくP・かざりP）とチャレンジP（ダッシュP・ダンスP）に分かれて活動していくことに決まった。また、今までの活動経験から、「プロジェクトごとに活動したら、シールを貼って貯めていくと楽しくできるよ」「プロジェクト活動の後に、良いところを伝え合ったら、ポジティブに頑張れるかも」と、学級をよりよくする方法を考えて、実行に移していた。それを見て私は、「みんなが見付けた学級をよりよくする方法をカードに書いて、どんどん貯めていこう！」と話した。それから、プロジェクトの活動ごとに、「学級がよりよくなるカード」を書いて蓄積していった。ポジティブ企画Pは、バナナ鬼を企画し、「助けてもらったら、ありがとうと言って握手をする」というルールを追

加して、ポジティブな気持ちになれるように工夫していた。その活動の後、「学級がよりよくなるカード」に、「ルールを工夫すると目標に近付ける」と記述したカードを書く児童が見られた。また、ダッシュPは、運動会のリレーの練習の企画を立てるときに、カレンダーを自分たちで書いて計画を立てていた。それを見た他のプロジェクトも計画を立てるときにカレンダーを使い、カードには「カレンダーを使うと計画が立てやすい」と記述していた。運動会は、四つのプロジェクト活動により、「ポジチャレ」の姿が多く見られ、大成功に終わった。運動会后、蓄積された「学級がよりよくなるカード」は72枚になった。それを見て「私たちこんなに頑張ったんだね」「この中には、次も使えるような方法がたくさんありそう」と活動の成果を感じている姿が見られた。その後カードを整理して、次も続けていきたい学級をよりよくする方法を話し合い、10個の方法が生まれた。それを、次回も使えるようにみんなで作成し掲示した。それを見て児童は、「次はどの方法を使おうか」と話し、学級をよりよくしていくことへの自信と意欲を感じている姿が見られた。



【集まった学級がよりよくなるカード】



【掲示された学級をよりよくする方法】

(4) 実践の成果と課題（成果：○課題：●）

運動会後に再度、学級目標実現度アンケートをとり、「ゴッドチャート」を作成した。「ポジティブに考える」と「チャレンジできる」の項目が伸びている。この結果から以下のように成果と課題をまとめた。

- 「ゴッドチャート」を活用し、評価項目の理由も児童に提示することで、学級目標への児童一人一人の思いを共有して話し合うことができた。
- 「学級がよりよくなるカード」で、活動を通して学級をよりよくする方法を蓄積したことで、児童は学級をよりよくすることへの自信を高めることができた。
- 「学級がよりよくなるカード」を整理していく話し合いでは、どの観点で整理するとよいのか決めておくとうかった。



【実践後のゴッドチャート】

3 研究のまとめ

実践後、「ゴッドチャート」を見て、『ポジティブに考える』と『チャレンジできる』が伸びる！やった！『ポジチャレ』大成功だね！と喜び合う児童の姿が見られた。実践後のアンケートには、『ゴッドチャート』は、みんなが考えた理由も分かるから、みんなの意見が分かる』『ゴッドチャート』で決めた目標は、絶対に達成したい』という記述が見られ、学級目標への児童一人一人の思いを共有できたことで、目標実現への必要感を高めることができた。また、「自分たちの力で、学級をアップデートしていけると思いませんか」という項目は、『学級がよりよくなるカード』が72枚もたまったから、次もアップデートしていけると思う』という記述や、『次は、下がってしまった、重点項目を目標にしていきたい』という記述が見られ、学級をよりよくしていけるという自信や次への意欲を感じることができた。一方で、「先生がいないところではまだできないと思う』という記述も見られた。今後は、さらに児童に学びのバトンを渡していき、自分たちで学級をよりよくしていけるように、児童たちの伴走者として、支援していきたい。